

食品安全情報（微生物） No.22 / 2025（2025.10.29）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. キュウリに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ（*Salmonella* Montevideo）感染アウトブレイク（2025 年 6 月 30 日付最終更新）

【[カナダ公衆衛生局（PHAC）](#)】

1. 公衆衛生通知：ドッグフードに関連して発生しているサルモネラ（*Salmonella* Oranienburg）感染アウトブレイク（2025 年 10 月 22 日付更新情報）
2. 公衆衛生通知：様々なブランドのピスタチオおよびピスタチオ入り食品に関連して発生しているサルモネラ（*Salmonella* Havana、*S.* Mbandaka、*S.* Meleagridis、*S.* Tennessee、*S.* Anatum、*S.* Bareilly、*S.* Senftenberg および *S.* Ohio）感染アウトブレイク（2025 年 10 月 21 日付更新情報）

【[欧州疾病予防管理センター（ECDC）](#)】

1. 欧州疾病予防管理センター（ECDC）が戦略的先見性にもとづき公衆衛生上のレジリエンスに関する今後の道筋を策定

【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

【[英国保健安全保障局（UK HSA）](#)】

1. イングランドおよびウェールズにおけるリステリア症：2024 年の概要
-

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)

<https://www.cdc.gov/>

キュウリに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Montevideo) 感染アウトブレイク (2025 年 6 月 30 日付最終更新)

Salmonella Outbreak Linked to Whole Cucumbers

June 30, 2025

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/whole-cucumbers-05-25/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/whole-cucumbers-05-25/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/whole-cucumbers-05-25/locations.html>

(Locations)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/whole-cucumbers-05-25/timeline.html>

(Timeline)

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Montevideo) 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集した。

疫学・追跡調査および検査機関での検査から得られたデータは、Bedner Growers 社が栽培したキュウリが *S. Montevideo* アウトブレイク株に汚染され、本アウトブレイクの感染源となったことを示している。

○ 疫学データ

2025 年 6 月 30 日時点で、*S. Montevideo* アウトブレイク株に感染した患者計 69 人が 21 州から報告された (図 1)。患者の発症日は 2025 年 4 月 2 日～5 月 29 日であった。情報が得られた患者 60 人のうち 22 人が入院し、死亡者は報告されなかった。

図 1：サルモネラ（*Salmonella* Montevideo）感染アウトブレイクの居住州別患者数（2025 年 6 月 30 日時点の計 69 人）

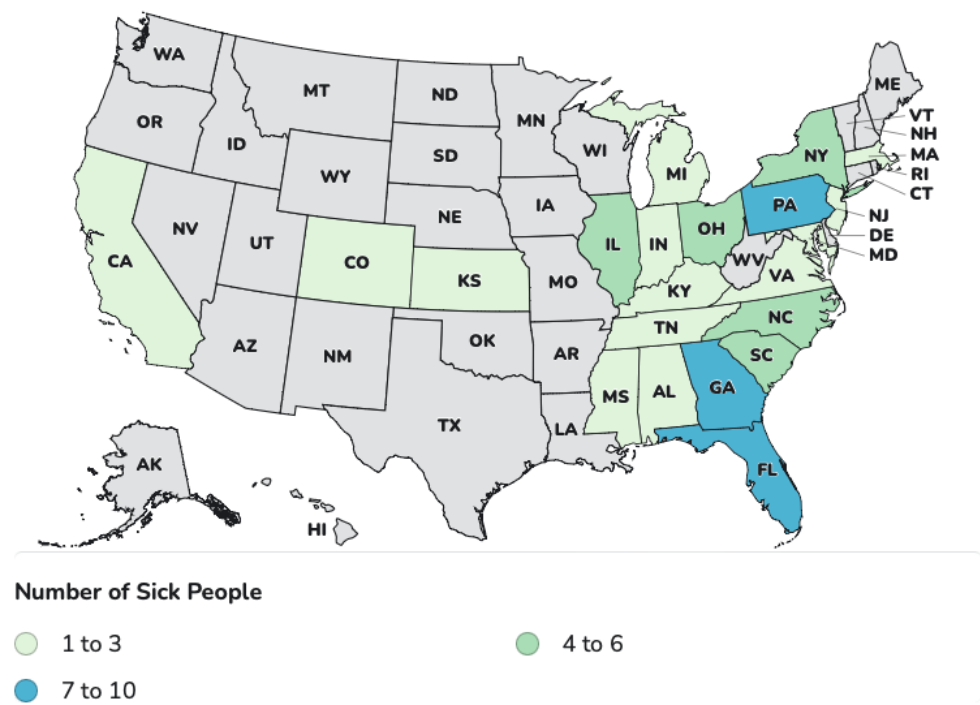
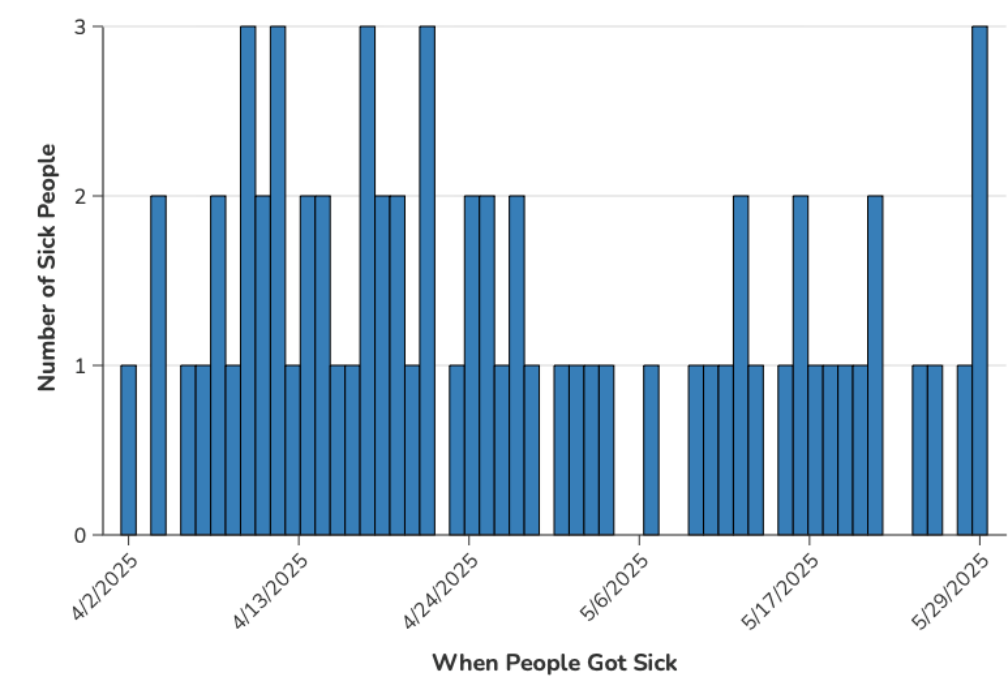


図 2：サルモネラ（*Salmonella* Montevideo）感染アウトブレイクの発症日別患者数（2025 年 6 月 30 日時点の計 69 人）



公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について得られた人口統計学的情報は以下の通りである (n は当該情報が得られた患者の数)。

年齢 (n=67)	年齢範囲：1～89 歳 年齢中央値：54 歳
性別 (n=68)	74%：女性 26%：男性
人種 (n=61)	82%：白人 18%：アフリカ系アメリカ人または黒人
民族 (n=61)	92%：非ヒスパニック系 8%：ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行った。聞き取りが実施された患者 35 人のうち 29 人 (83%) がキュウリの喫食を報告した。この割合は、過去に実施された FoodNet の住民調査 (以下 Web ページ参照) において、回答者の 50%が調査実施日前 1 週間にキュウリを喫食したと報告した結果と比べ有意に高かった。

<https://www.cdc.gov/foodnet/surveys/population.html>

この喫食率の差は、本アウトブレイクの患者がキュウリの喫食によって感染したことを示唆していた。患者 8 人が、発症前 7 日間に船旅に参加したことを報告し、全員がフロリダ州内から出発していた。患者のうち 3 人は同一の船で旅行していた。これらの患者は、2025 年 3 月 30 日～4 月 12 日に米国を出発した計 6 隻の客船に分乗していた。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には全ゲノムシーケンシング (WGS) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたサルモネラ株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

WGS 解析の結果、患者由来 68 検体、食品由来 1 検体、および環境由来 2 検体から分離

されたサルモネラ株については抗生物質耐性の存在は予測されず、別の患者由来 1 検体および食品由来 1 検体ではトリメトプリムへの耐性が予測された。抗生物質耐性に関する詳細情報は、CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム（NARMS）の以下の Web ページから入手可能である。

<https://www.cdc.gov/narms/index.html>

サルモネラ症患者のほとんどは抗生物質を使用せずに回復する。また、抗生物質が必要になった場合でも、この耐性が大多数の患者の治療に使用される抗生物質の選択に影響を及ぼす可能性は低い。

患者は、食料品店・飲食店・病院・客船上など様々な場所でのキュウリの購入や喫食を報告した。FDA による追跡調査から、本アウトブレイクに関連したキュウリに共通する単一の栽培業者として **Bedner Growers** 社が特定された。

このアウトブレイクの原因となった *S. Montevideo* 株は、FDA によってペンシルベニア州の流通センターで採取されたキュウリの検体から特定された。また、2024 年のサルモネラ (*S. Africana* および *S. Braenderup*) 感染アウトブレイク（食品安全情報（微生物）No.5 / 2025（2025.03.05）US CDC 記事、および以下 Web ページ参照）における一部の患者と関連のあった流通センターから採取された検体から、*S. Montevideo* とは異なるサルモネラ菌株が特定された。

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/outbreak-investigation-salmonella-cucumbers-june-2024>

○ 公衆衛生上の措置

多数の企業がキュウリおよびキュウリを用いて製造された食品を回収した。当該製品の販売は既に終了している。

（食品安全情報（微生物）No.12 / 2025（2025.06.11）、No.11 / 2025（2025.05.28）US CDC 記事参照）

● カナダ公衆衛生局（PHAC: Public Health Agency of Canada）

<https://health.canada.ca/index-phac-aspc.php>

1. 公衆衛生通知：ドッグフードに関連して発生しているサルモネラ（*Salmonella* Oranienburg）感染アウトブレイク（2025 年 10 月 22 日付更新情報）

Public Health Notice: Outbreak of *Salmonella* infections linked to dog food and treats
October 22, 2025: Update

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notice/2025/outbreak-salmonella-infections-dog-food-treats.html>

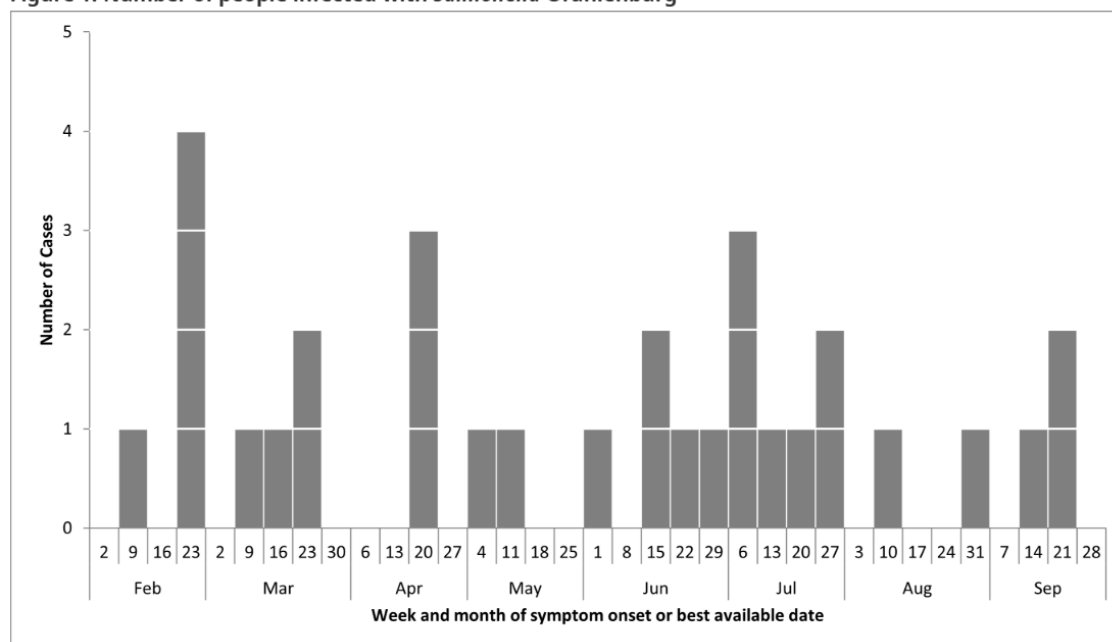
カナダ公衆衛生局（PHAC）は、ドッグフードに関連して発生しているサルモネラ（*Salmonella* Oranienburg）感染アウトブレイクに関する公衆衛生通知を発表した。本アウトブレイクの調査は継続している。

○ 調査の概要

本アウトブレイクに関連して検査機関で *S. Oranienburg* 感染が確定した患者計 31 人が、アルバータ州（14 人）、ブリティッシュ・コロンビア州（14）、オンタリオ州（2）およびノースウェスト準州（1）から報告されている。患者の発症日は 2025 年 2 月中旬～9 月下旬（図）で、患者の年齢範囲は 0～87 歳である。患者の 58%が女性である。患者 7 人が入院し、死亡者は報告されていない。

図：サルモネラ（*Salmonella* Oranienburg）感染アウトブレイクの発症週別患者数（2025 年 10 月 16 日時点の計 31 人）

Figure 1: Number of people infected with *Salmonella* Oranienburg



（食品安全情報（微生物）No.20 / 2025（2025.10.01）PHAC 記事参照）

2. 公衆衛生通知：様々なブランドのピスタチオおよびピスタチオ入り食品に関連して発生しているサルモネラ (*Salmonella* Havana、*S. Mbandaka*、*S. Meleagridis*、*S. Tennessee*、*S. Anatum*、*S. Bareilly*、*S. Senftenberg* および *S. Ohio*) 感染アウトブレイク (2025 年 10 月 21 日付更新情報)

Public health notice: Outbreak of *Salmonella* infections linked to various brands of pistachios and pistachio-containing products

October 21, 2025: Update

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notices/2025/outbreak-salmonella-infections-pistachios-related-products.html>

カナダ公衆衛生局 (PHAC) は、様々なブランドのピスタチオおよびピスタチオ入り食品に関連して発生しているサルモネラ (*Salmonella* Havana、*S. Mbandaka*、*S. Meleagridis*、*S. Tennessee*、*S. Anatum*、*S. Bareilly*、*S. Senftenberg* および *S. Ohio*) 感染アウトブレイクに関する公衆衛生通知を更新した。

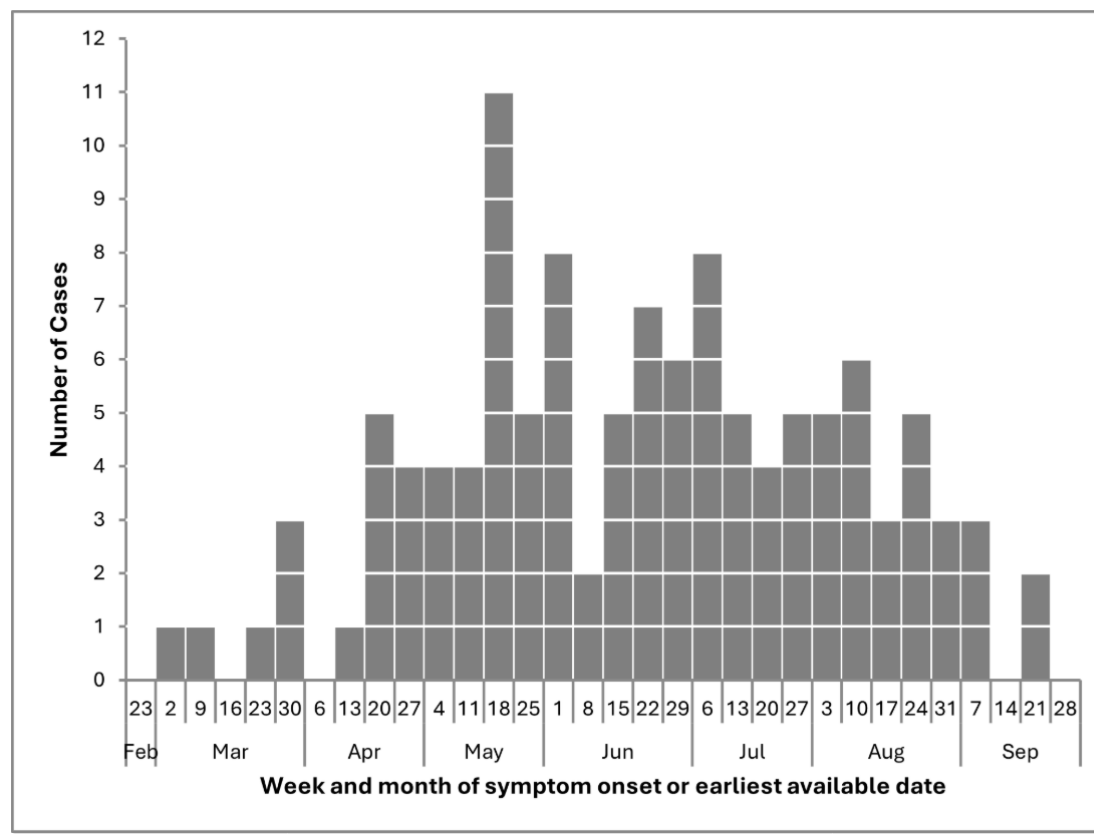
本アウトブレイクの調査は継続している。

○ 調査の概要

本アウトブレイクに関連して *S. Havana*、*S. Mbandaka*、*S. Meleagridis*、*S. Tennessee*、*S. Anatum*、*S. Bareilly*、*S. Senftenberg* または *S. Ohio* への感染が検査機関で確定した患者が 6 州から計 117 人報告されている。州別の内訳は、ブリティッシュ・コロンビア (9 人)、アルバータ (4)、マニトバ (2)、オンタリオ (34)、ケベック (67) およびニューブランズウィック (1) である。患者の発症日は 2025 年 3 月上旬～9 月下旬である (図)。報告患者のうち 17 人が入院し死亡者はいない。患者の年齢範囲は 2～95 歳である。患者の 74%が女性である。

図：サルモネラ（*Salmonella* Havana、*S.* Mbandaka、*S.* Meleagridis、*S.* Tennessee、*S.* Anatum、*S.* Bareilly、*S.* Senftenberg および *S.* Ohio）感染アウトブレイクの発症週別患者数（2025 年 10 月 21 日時点の計 117 人）

Figure 1: Number of people infected with *Salmonella* Havana, *Salmonella* Mbandaka, *Salmonella* Meleagridis, *Salmonella* Tennessee, *Salmonella* Anatum, *Salmonella* Bareilly, *Salmonella* Senftenberg, and *Salmonella* Ohio



患者の多くがピスタチオまたはピスタチオ入り食品（ドバイスタイルのチョコレート、ペストリー製品など）の喫食を報告した。回収対象製品（以下 Web ページ参照）のうち、ピスタチオ製品およびドバイスタイルのチョコレートの複数検体からサルモネラアウトブレイク株が検出された。

<https://inspection.canada.ca/en/inspection-and-enforcement/food-safety-investigations/pistachio-recall-salmonella#a3>

調査は継続しているため、本アウトブレイクに関連した別の食品が新たに特定される可能性がある。

（食品安全情報（微生物） No.20/2025（2025.10.01）、No.18/2025（2025.09.03）、No.17/2025（2025.08.20） PHAC 記事参照）

● 欧州疾病予防管理センター (ECDC: European Centre for Disease Prevention and Control)

<https://www.ecdc.europa.eu/en>

欧州疾病予防管理センター (ECDC) が戦略的先見性にもとづき公衆衛生上のレジリエンスに関する今後の道筋を策定

ECDC charts future path for public health resilience through strategic foresight

8 May 2025

<https://www.ecdc.europa.eu/en/news-events/ecdc-charts-future-path-public-health-resilience-through-strategic-foresight>

欧州疾病予防管理センター (ECDC) は将来の公衆衛生上の複数の課題を検討し、これらの課題に備えるため、包括的かつ戦略的な予測のためのイニシアチブを 2022 年初めに開始した。この多様な手段を交えたアプローチは、将来起こり得るケースシナリオを描出して新たな脅威への対応策を特定することで、ECDC のレジリエンスと準備体制を強化することを目的としている。ECDC はこの活動の過程から得られた知見をまとめた報告書（行動計画の一覧を含む）を発表した（食品安全情報（微生物）No.19/2025（2025.09.17）ECDC 記事）。

検討された多岐にわたる将来のケースシナリオにおいて、いくつかの課題が再度指摘された。

1. 気候変動

すべてのケースシナリオで、気候変動の影響が持続または悪化することが指摘された。気温の上昇や生態系の変化により、ベクター媒介性疾患や人獣共通感染症、および食品・水由来の疾患リスクが高くなる。こうした現実から、ヒト、動物、環境の衛生を結びつける統合的な「One Health」の観点にもとづく戦略の必要性が強調されている。

2. 疾病予防の課題

国民の信頼の低下、社会の断片化、利益重視傾向に起因する予防対策への無関心によって、予防接種やヘルスコミュニケーションなどの予防対策の実施は、今後さらに困難になる可能性がある。誤った情報の拡散も、これらの取り組みをさらに複雑にするものと予想されている。

3. 人口動態および社会的圧力

人口の高齢化、社会的不平等の深刻化および医療へのアクセス低下が既存のシステムの負担となり、感染症アウトブレイクの温床となる可能性がある。高齢者、社会的弱者およびこころの健康状態に問題を抱えている人々などの脆弱なグループは今後増加し、多様化していく。

4. データとデジタル変革

テクノロジーとデジタル化は、サーベイランスと医療を変革する一方で、リスクをもたらしもする。将来のシナリオによっては膨大な量のデータが利用可能になる一方、データへのアクセスが制限されるケースも起こり得る。人工知能（AI）のような新興技術も、疾病のモニタリングと対応において機会と脅威の両方をもたらし得る。

5. ガバナンスモデルの変化

将来におけるガバナンスの変化は、公衆衛生当局に広範な不確実性をもたらす。ECDC のような組織の構造と影響力は、大幅に影響を受ける可能性がある。

これらの知見にもとづき、ECDC は、長期的な準備を強化するための堅固かつ先見性の高い一連の行動計画を策定した。

- ・ コミュニケーションおよび公的関与の強化

アウトリーチ活動およびメッセージの発信力を強化し、国民からの信頼を高め、様々な層の人々に対する明確かつ適時のコミュニケーションを確実に行う。

- ・ データキャパシティの拡大

オープンアクセスのものからアクセス制限のあるものまで、多様なデータ環境におけるデータの有効性を維持するための最良の慣行と専門知識を開発する。

- ・ 専門知識への投資

気候変動、行動科学、医療経済学、データモデリング、人工知能など、それぞれの分野の専門チームのために資源を割り当てる。

- ・ 脆弱なコミュニティへの働きかけ

最もリスクの高い地域住民との関係を構築し、利用しやすく信頼性のある実行可能なアドバイスを確実に行う。

- ・ 国際的な連携の推進

世界保健機関（WHO）やその他の公衆衛生機関など関連機関との協力関係を深め、欧州内外の地域において、レジリエンスのある、相互連携した対応行動ネットワークを構築する。

本報告書にまとめられた内容は、主に ECDC の今後の戦略的方向性を決定するための内部使用を目的としている。したがって、本報告書は、この将来予測プロセスから得られた詳細な内部分析・洞察・考察の高レベルな成果を、概要としてまとめたものに過ぎない。ただ

し、その概要は、ECDC の外部協力機関や関係者が、参考・情報・行動の指針として活用することが可能である。

(食品安全情報 (微生物) No.19 / 2025 (2025.09.17) ECDC 記事参照)

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

https://commission.europa.eu/about/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety_en

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

https://food.ec.europa.eu/food-safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2025 年 10 月 7～20 日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

フランス産チーズの志賀毒素産生性大腸菌、ポーランド産冷凍鶏もも肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、オランダ産むきエビのリステリア (*L. monocytogenes*)、オーストリア産豆腐のセレウス菌、ポーランド産ケバブ (生鮮家禽肉・冷凍鶏肉) のサルモネラ、ドイツ産の生鮮殻付きカニのリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産七面鳥ドラムスティック肉のサルモネラ (*S. Newport*)、ポーランド産 (ドイツ経由) 刻みタイムのサルモネラ属菌、ドイツ産冷蔵生ソーセージの志賀毒素産生性大腸菌、アイルランド産ほぐしスモークサーモンのリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産冷凍ケバブ (鶏肉・七面鳥肉) のサルモネラ (*S. Infantis*)、ブルガリア産ヒマワリ種子製品のサルモネラ (*S. Typhimurium*) など。

注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

フランス産家禽首皮のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、ハンガリー産冷蔵鶏むね肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、ルーマニア産冷蔵鶏ドラムスティック肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、イタリア産サラミのサルモネラ属菌、ウクライナ産冷蔵鶏むね肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、ルーマニア産鶏肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ハンガリー産七面鳥もも肉のサルモネラ属菌、インド産 IQF (個別急速冷凍) エビ尾 (軽く加熱処理済み) のサルモネラ属菌、ポーランド産サーモン切り身のサルモネラ、スウェーデン産サーモン (グラブラックス) のリステリア (*L. monocytogenes*)、ギリシャ産鶏むね肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、アイルランド産ローストチキン入りソースのパスタのリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産の生鮮家禽肉のサルモネラ属菌、トルコ産 (イタリア・ドイツ経由) 魚製品の細菌 (好気性中温菌・腸内細菌科菌群・シェードモナス属菌)、ポーランド産家禽肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*) など。

フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

フランス産粉末フェヌグリークのサルモネラ (*S. Telhashomer*)、オランダ産冷凍鶏脚肉のサルモネラ属菌、オランダ産大豆ミールのサルモネラ (*S. Agona*)、オランダ産豚肉 (半完成品) のサルモネラ属菌、ポーランド産鶏肉のサルモネラ (O8、4/5 検体陽性) など。

通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

インド産ゴマ種子のサルモネラ属菌、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ属菌など。

● 英国保健安全保障局 (UK HSA: UK Health Security Agency)

<https://www.gov.uk/government/organisations/uk-health-security-agency>

イングランドおよびウェールズにおけるリステリア症：2024 年の概要

Listeriosis in England and Wales: summary for 2024

8 May 2025

<https://www.gov.uk/government/publications/listeria-monocytogenes-surveillance-reports/listeriosis-in-england-and-wales-summary-for-2024>

2024 年の主要な結果

本報告書は、イングランドおよびウェールズにおける 2024 年のリステリア症確定患者の数・人口統計学的特徴・臨床転帰をまとめたものであり、主要な結果は以下の通りである。

- ・ イングランドおよびウェールズでは 2024 年にリステリア症患者が計 179 人報告された。
- ・ リステリア症の罹患率は「80 歳以上」の年齢層で最も高かった。
- ・ リステリア症の人口 10 万人あたりの粗罹患率は全体的には女性より男性の方が低かったが、「60～69 歳」、「70～79 歳」および「80 歳以上」の各年齢層では男性の方が高かった。
- ・ 妊娠関連の患者はリステリア症の全報告患者の約 5 分の 1 を占め、情報が得られた妊娠関連患者のうち 43.7%が死産または流産した。
- ・ 非妊娠関連のリステリア症患者では計 28 人（19.9%）の死亡が報告され、このうち死因がリステリア症であったことが死亡診断書に記載された患者は 9 人（死亡が報告された 28 人の 32.1%（全ての非妊娠関連患者 142 人の 6.3%））であった。
- ・ リステリア症の人口 10 万人あたりの罹患率は地域によって異なっており、イングランド東部（0.23）で最も低く、ロンドン（0.39）で最も高かった。
- ・ イングランドおよびウェールズでは 2024 年に計 7 件のリステリア症アウトブレイクについて調査が行われ、このうちの数件は、燻製魚、チョコレート・ストロベリームース、ガーリックソーセージおよび包装済みサンドイッチに関連した国内アウトブレイクであった。

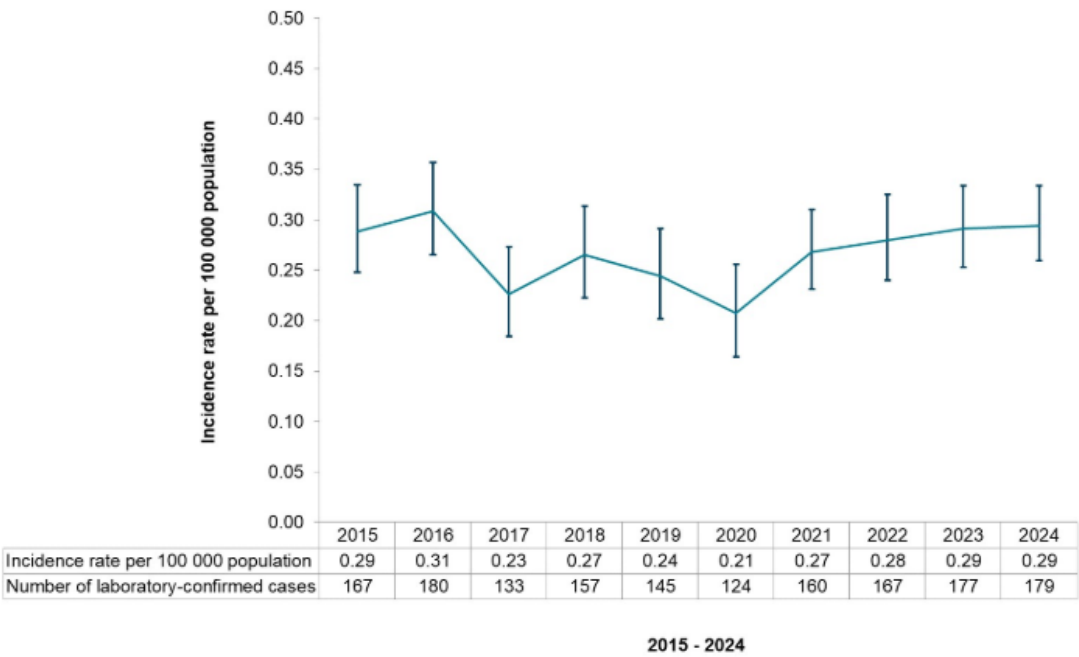
リステリア症のための全国サーベイランスの 2024 年のデータ

○ リステリア症の年間患者数

イングランドおよびウェールズでは、全国サーベイランスを介して 2024 年にリステリア症患者計 179 人が報告され、2023 年以前の 5 年（2017～2019 年および 2022～2023 年）の中央値（n=157）より 14%多かった（図 1）。リステリア症の 2024 年の粗罹患率は、人口 10 万人あたり 0.29（95%信頼区間（CI）：0.25～0.34）であり、2023 年と同等であった（2024 年は 2023 年より患者数が 2 人多かった）。

図 1: イングランドおよびウェールズにおけるリステリア症の年間報告患者数および粗罹患率（2015～2024 年）

Figure 1. Annual cases and crude incidence rate of listeriosis reported in England and Wales, 2015 to 2024

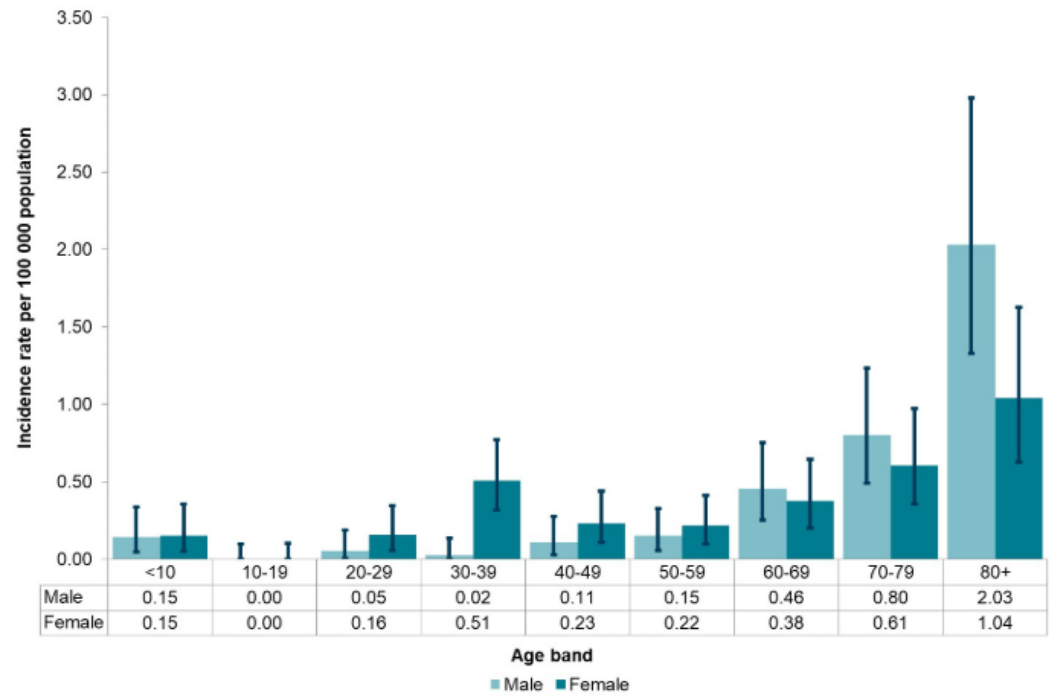


○ リステリア症の年齢層別・性別分布

リステリア症の罹患率は年齢層および性別で異なり、年齢層別罹患率は「80 歳以上」の年齢層で最も高かった（図 2）。

図 2: イングランドおよびウェールズにおけるリステリア症の年齢層別罹患率(性別で層化、2024 年) *

Figure 2. Age-specific incidence of listeriosis in England and Wales, stratified by sex, 2024 [note 1]



(* 妊娠関連の患者の一部については、国立リファレンス検査機関（NRL）が受け取ったのは乳児由来の臨床分離株のみであった。したがって、英国保健安全保障局（UK HSA）が入手できたのはこれらの乳児（母親ではなく）の年齢・性別データのみであり、本図にはそのデータのみが含まれている。)

リステリア症の粗罹患率は、全体的に女性より男性で低かった（表 2、罹患率比（IRR（Incidence Rate Ratio）：0.82、95%CI：0.60～1.10）が、「60～69 歳」（IRR：1.21、95%CI：0.54～2.76）、「70～79 歳」（IRR：1.32、95%CI：0.66～2.68）および「80 歳以上」（IRR：1.95、95%CI：1.04～3.73）の各年齢層では男性の方が女性より高かった（図 2）。

表 2：イングランドおよびウェールズにおけるリステリア症報告患者の性別罹患率（2024 年）

Table 2. Sex-specific incidence rates of listeriosis reported in England and Wales, 2024

Gender	Reported cases	Incidence rate	95% CI
Male	79	0.26	0.21 to 0.33
Female	100	0.32	0.26 to 0.39

「20～29 歳」（IRR：0.33、95%CI：0.03～1.84）、「30～39 歳」（IRR：0.05、95%CI：0.001～0.30）、および「40～49 歳」（IRR：0.46、95%CI：0.10～1.66）の年齢層では、妊娠関連のリステリア症が多く報告されたことから、男性の方が女性より罹患率が低かった。

「10～19 歳」、「20～29 歳」、「30～39 歳」および「40～49 歳」の年齢層の患者計 44 人のうち 37 人が女性であり、このうち 29 人が妊娠関連患者であった（年齢範囲は 22～43 歳）。

○ 妊娠関連患者

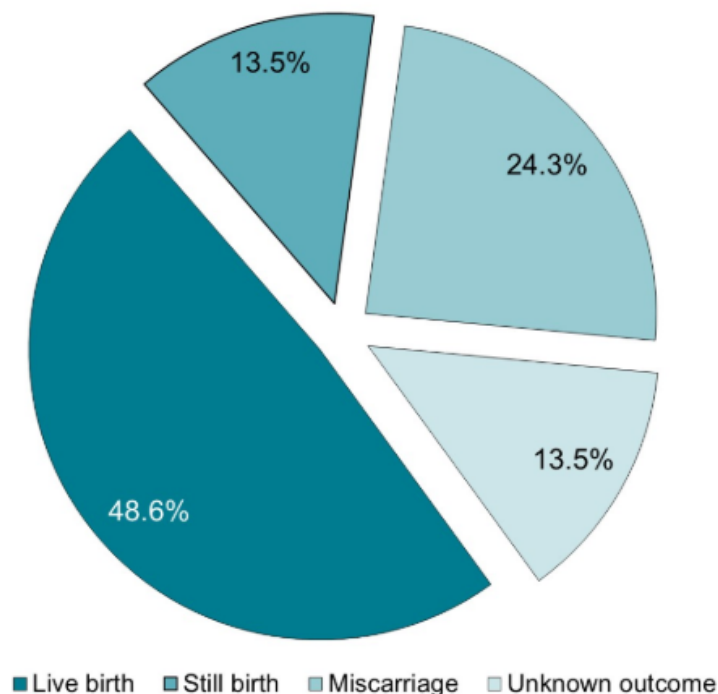
2024 年は患者の 5 分の 1 以上（n=37、20.7%）が妊娠関連患者であり、2023 年以前の割合（2017～2019 年および 2022～2023 年は 14.4～19.5%）より高かった。

情報が得られた妊娠関連患者（32 人中 18 人）の 56.3%が出産し、43.7%が死産または流産した。

イングランドおよびウェールズの 2024 年のすべての妊娠関連リステリア症患者の 48.6%が出産、13.5%が死産、24.3%が流産し、13.5%については転帰が不明であった（図 3）。

図 3: イングランドおよびウェールズにおける妊娠関連リステリア症患者の転帰 (2024 年)

Figure 3: Pregnancy associated cases of listeriosis in England and Wales in 2024



○ 死亡率

2024 年に全国サーベイランスに報告された非妊娠関連リステリア症患者 142 人のうち、死亡者は 28 人であり、非妊娠関連リステリア症患者における死亡率 (19.9%) は 2023 年以前の 5 年 (2017~2019 年および 2022~2023 年) の中央値 (28.5%、範囲は 21.6~44.9%) より低かった。

死亡者 28 人のうち 9 人については、侵襲性リステリア (*L. monocytogenes*) 感染の臨床症状が死因として記録されていることが判明している (当該データは不完全である可能性があることに注意)。侵襲性 *L. monocytogenes* 感染による致死率は、2023 年の 7.4% に対し、2024 年は 6.3% であった。

○ リステリア症の発生事例

2024 年は、イングランドでリステリア症アウトブレイク (患者 2 人以上に関連した事例) 計 7 件が調査され、このうち 2 件にはウェールズの患者も含まれていた。調査の結果、7 件のうち 5 件については原因食品が特定され、これらの食品はすべて、健康被害を受けやすい集団においてリステリア症の高リスク食品とみなされている燻製魚、ガーリックソーセージ、包装済みサンドイッチなどであった。

- ・ 燻製魚に関連して 2020～2024 年にイングランドで発生したリステリア症アウトブレイク

2020 年 12 月、計 3 人（うち 1 人死亡）が同一のリステリア（*L. monocytogenes*）株に感染したことから、イングランドで 1 件のリステリア症アウトブレイクの発生が探知された。これらの患者 3 人全員に基礎疾患の併存またはリステリア症のリスク因子があり、このうち 1 人は妊娠関連患者であった。患者 1 人が、英国のスーパーマーケットチェーンで購入した「サーモンの切り落とし」および「スライススモークサーモン」の喫食を報告した。

EpiPulse（欧州感染症サーベイランスポータルサイト）を介して国外への問い合わせが行われたことを受け、欧州連合（EU）加盟 1 カ国においてスモークサーモンから採取された食品検体由来の分離株について全ゲノムシーケンシング（WGS）解析が実施された結果、リステリアアウトブレイク株が検出された。当該検体の追跡調査から、患者 1 人が報告したスーパーマーケットチェーンにサーモン製品を供給した英国内のスモークサーモン供給業者が特定された。

また、新たな患者が 2021 年に 2 人、2022 年に 7 人、2023 年に 3 人および 2024 年に 3 人特定された。これらの患者は全員に、基礎疾患の併存またはリステリア症のリスク因子があり、全員が非妊娠関連で、本人または近親者による標準質問票への回答が可能であった患者は全員が燻製魚製品の喫食を報告した。

このアウトブレイクを受けて実施されたリスク低減策として、英国国営医療サービス（NHS）のガイダンスが更新され、健康被害を受けやすい集団におけるリステリア症の高リスク食品に燻製魚が追加された。さらに、健康被害を受けやすい集団に特定の燻製魚製品が微生物学的リスクをもたらす可能性があることを通知するため、当該製品に注意喚起を表示する制度も導入された。

- ・ 包装済みサンドイッチに関連して 2024 年にイングランドで発生したリステリア症アウトブレイク

2024 年 5 月、計 3 人（うち 2 人死亡）が同一の *L. monocytogenes* 株に感染したことから、イングランドで 1 件のリステリア症アウトブレイクの発生が探知された。これらの患者 3 人全員に基礎疾患の併存またはリステリア症のリスク因子があった。このうち 2 人は包装済みサンドイッチの喫食を報告し、残る 1 人については当該サンドイッチを喫食した可能性があることが報告された。当該サンドイッチは回収が実施され、製造業者が速やかに製造を中止したことから、その後新たな患者は発生していない。

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室